

中心地域整備に関する調査特別委員会（第２回）

日 時 令和元年 7 月 5 日（金）

9 時 0 0 分～1 1 時 1 5 分

場 所 議会棟 議場

出席者 委員長、副委員長、委員 7 名（欠席：なし）（傍聴者：なし）

山本議長

説明員 丸山副町長、実延企画課長、榎尾参事、坂本農林課長

書 記 川上書記、花倉事務局長

○大西委員長 皆さんおはようございます。中心地域整備に関する調査特別委員会
が、改選後再度設置されました。委員長を引き受けさせていただくことになりました
ので、どうかよろしくお願い申し上げます。中心地域整備は、日南町の将来を見据え
た、また町民の関心度の高い重要なテーマでございます。議会の大きな役割でありま
すチェック機能を果たして参りたいと思いますので、どうか皆様よろしくお願い申し
上げます。本日は報告・調査協議事項といたしまして、道の駅にちなん日野川の郷の
運用状況について、まちづくりアンケート結果に基づく中心地域整備の今後の考え方
について協議をいたします。それでは執行部よりお願いいたします。丸山副町長。

○丸山副町長 6 月定例議会等でご挨拶をしておるところありますけれども、4 月
から就任をしております副町長であります。中心地域整備に関する調査特別委員会に
おきましては、最初の会議でありますので参加をさせていただきましたし、これまで
も副町長のほうが担当させていただいて同席をさせていただいているところでありま
す。従いまして、私も同じく皆さんと協議を重ねていきたいという思いから、同席を
させていただいております。この中心地整備事業につきましては、確か平成 21 年、
22 年頃から始まった事業だと解釈をしておりますけれども、その間、いろいろな計
画や実行等々がなされていたところであります。先人の皆さんには敬意を表するところ
でありますけれども、最近いろいろな状況等も変わってきておるところがあります。
その部分、この外から、そして担当から、いろいろと見させていただいて、もっとも
っと奥の深いところがあると感じたところあります。本日は、特に道の駅にちなん

日野川の郷の経営状況と併せて、アンケートの中心地部分について審議をしていただくようであります。特に道の駅につきましては、十分に周知していなかったところもありますけれども、前回の6月の定例議会の期間中に、6月1日から駅長が変わっておられるようでありまして、新しく竹則駅長になっているということを委員会のほうで報告したところでもありますけれども、前任の田代駅長につきましては、本当に一生懸命やっただいて、また新しい人生を歩みたいということで、一身上の都合によりまして退職をしておられますけれども、現在の駅長さんにおかれましても一生懸命の説明をしていただいておりますし、経営をしていただいております。十分に把握をしておるわけではありませんけれども、甘いかもしれませんが、経営状態等につきましても、今年度に入りましていろいろと努力をしておられて、周りの繋がりもしておられるように感じておりまして、引き続き一緒になってと言うか、努力をしていただきたいと感じているところでもあります。以後、いろいろと担当のほうから説明を申し上げます。いろいろとご審議をいただきたいと思います。なかなか新たなところというよりも、先ほども言いましたけれども、これまでのいろいろな経過の中で現在があると思います。さらに奥を深めたり、前に進めたりして、この中心地全体の事につきましても行きたいと思いますので、ご指導等よろしくお願いいたします。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 それでは平成30年度の道の駅日野川の郷の状況のほう説明いたします。タブレット道の駅にちなん日野川の郷運営状況ファイル、1ページのほうご覧ください。1ページのほうに、道の駅の平成30年度の実績のほう載せております。今年度、平成30年度の道の駅の全体での売り上げは9,208万円となり、前年度から486万円の増となりました。9,208万円の内訳としまして、直売所のほうが6,226万円、前年度と比較しまして230万円の増。レストランのほうが2,110万円、前年度と比較しまして340万円の増。トマト加工さんのほうが871万円、前年度と比較しまして、こちらのほうは若干落ち込みましたが、88万円の減となっております。EVIにつきましては、9,208万円のうち、22万911円のほうがうちEVIになっております。レジ通過のほうは、申し訳ございません、表のほうをご覧ください。施設の利用状況につきまして、2段目の表のほうに載せております。表の3段目につきましては、年間来場者数を掲載しております。昨年度と比較しまして7,358人の増の13万

7,179 人の道の駅の集客のほうがございました。1 ページ最下段、運営委託料のほう載せさせていただいております。平成 30 年度から指定管理者に変わり、固定の 1,000 万円と、歩合制といたしまして、出荷者協さんの売り上げの 15%、表に示させていただいております歩合 462 万 9,000 円を足しまして、委託料としましては 1,462 万 9,000 円ということになっております。2 ページのほうご覧ください。2 ページのほうは、平成 28 年から平成 30 年、3 ヶ年分の直売所の売上とお客様の推移のほう載せていただいております。グラフ下段のほうには、レストラン同様に売上、お客様の推移ということで、3 年間分載せていただいております。3 ページ目のほうご覧ください。3 ページ目のほう、直売所売り上げの部門別の明細のほう載せていただいております。平成 30 年度の主な特徴としまして、過去もそうでしたが、全体の売り上げ、直売所の売り上げの約 58%を食品のほうが占めております。食品のほうの売り上げが、3,468 万 7,000 円となっております。次いで部門別としましては、野菜の 805 万 4,000 円。全体の 13%を占めております。次いで穀物 473 万円。全体の売上の 8%のほう占めております。食品につきましては、お菓子類が最も売り上げが多く、1,300 万円というような結果となっております。野菜につきましては、売上金額順になりますが、トマト 160 万円、きのこ類が 103 万円というような形になっております。表の右側のほうご覧ください。こちらのほう売上に対して、出荷者協さんとサクセスさんの仕入れ分ということで、割合のほうを載せていただいております。昨年度と比較しまして、出荷者協さんからの割合的には仕入れが落ちて、金額的にも落ちてきているところではございますが、全体として比較しまして、生鮮類、りんご等の不作、トマトジュースの販売の減ですとか、売れ筋商品、店のレイアウトの変更に伴って、出荷者協さんから入れるものが若干少なくなったものもあったりするような関係で、このような結果となったと分析しております。簡単ではございますが以上です。

○大西委員長 ありがとうございます。それでは皆様方のほうから、質疑に入りたいと思います。何か質問ありましたらお願いします。近藤委員。

○近藤委員 この中でちょっと自分気になるのが、加工実習室の利用と、それから出荷者協の売上割合ですね。直売所の売上割合が減ってきているのが大変気がかりなわけですけど。この加工実習室の利用というのが、要するに日南町の中の生産物を、生産者の方、また出荷者協の方が加工をして特産品販売に繋げようということである

いろな施設を備えて準備をして、それを道の駅で販売するというような大きな目標があったように思われますけれど、それが利用が半減しております。要するに、その出荷者協が道の駅に対して、こういった加工をやっていこうという意欲が半減しているのか、萎えているのか。そういったその内容について、どのように捉えておられるのかお伺いします。それと併せまして、直売所の売り上げが63%から50%と1割以上の減に出荷者協の割合が減っておるわけですが、これは売り上げも当然700万円落ち込んでおるわけですが、これも出荷者協の方々の、今あった加工実習室の利用と併せまして、生産意欲、販売意欲、出荷意欲というものがどういう動きをしているのか、どのように捉えておられるのかお伺いします。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 加工実習室を使った加工品の対応ということですが、出荷者協のほうとしましては、毎月のように定例会をしまして商品を出す。それと加工品の開発につきましても、町の補助事業等もありますので、そういったものを活用して、引き続きやっていくということは検討しております。続けるという方向で前向きに考えているところですが、昨年につきましては数字で示した通り、件数が減ってしまったという事実のほうはあるかと思っております。それと出荷者協全体の売上が下がってきているというところにつきましては、出荷者協の会員としましては減っているというわけではないのですけれども、高齢化に伴い、またそれと新たな生産者の掘り起こしということもしてはいるのですけれども、昨年につきましては、先ほど榎尾参事のほうも言いましたけれども、日南町の果物であるりんごのほうが不作に終わってしまったというところ、それと穀物につきましても、落ちてはいるのですけれども、日南町産米を、日野川の郷、道の駅のブランドで売っているものがありまして、そちらのほうの日南町産米自体は使っているのですけれども、そちらが仕入れ商品のほうに移っている部分があったりしまして、商品的には日南町産の物を仕入れも、出荷者協のほうも、米として売っている部分があるのですけれども、若干その辺りで動いたというところもありまして、全体で見ると減額となっております。この減額になってしまったということにつきましては、出荷者協のほうも感じていること、事実として認めておりますし、出荷者協の会長さん、役員さん等で、来年度に向けて新たに掘り起こしや、どうやって出荷者協も盛り上げていこうかということについては、毎月定例会もしまして、改善策を今練っているという最中でございます。

○大西委員長 近藤委員。

○近藤委員 加工実習室のほう、引き続きこれを促していくということですが、自分が聞きたかったのは、加工してやろうということ、新しい商品を開発してやろうという意欲というものの動きが萎えてきているのではないかというような懸念をして今質問したわけですが、その点はどのように捉えておられますか。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 28年度にオープンして、その時には確かにドレッシング等を一気に作られていたというところがありました。いろいろなドレッシングを売って、いろいろな生産者が作られて、野菜は横の直売所で買って、いろいろなものを選んでいただくというところでスタートしておりましたが、確かに1サイクル過ぎて、次になかなか手が出ていないというところはあるかと思います。萎えてしまったというところではなくて、今また別の商品というところも考えながら、新商品というところも見据えながら今検討しているというところで、出荷者協として加工実習室の利用をやめて、生鮮だけに向かおうというような考え方を持っているというわけではなくて、加工のほうも引き続き続けていきたいと考えております。

○大西委員長 近藤委員。

○近藤委員 それと出荷者の直売所の売り上げに関連すると思いますけれど、これは道の駅は委託販売をやっておられるわけですが、この売れ残り商品の割合、それから反面、その出荷調整、要するに出荷依頼の調整、そういったことで要するに売れ残る商品は出荷をしないでくださいというような指導があるのかないのか、売れ残り商品が増えているのかいないのか、その辺りの動きは、この直売所の販売売上の数字は分かるわけですが、その実態として物の動きというのが見えないわけで、売れ残りがどれぐらい出ているのか、またその利用は他のほうで流通させるというような手法を考えておられるのかないのか、その辺りをお伺いします。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 売れ残り商品につきましては、基本的に出荷者のほうでまた引き取っていただくというようなスタイルを開始当初からしておりますので、商品のある程度日数が経ったものについては、道の駅のほうから連絡があったり、他の生産者で気付かれた点があれば、お互いの中で連絡し合うというような格好で下げているというような状況です。出荷調整につきましては私も勉強不足なのですが、こういっ

たものを出来る時期とすると町内一緒になってしまうというところがありますけれども、出荷調整をしているということは聞いては今のところありません。

○大西委員長　　近藤委員。

○近藤委員　　いえ、お伺いしたいのは、売れ残り商品の量が多くなってきているのか。要するに売り上げが落ちておとるということは、出荷数が減ったのか、それとも売れなくて売れ残り商品が増えてきたのか、その辺の分析を聞きたいもので。それと昨日、ホテルの関係で道の駅のほうに行ったら、やはりシーズン柄ではありますけれども、大変野菜が少なく、同じ売り場の中で空いた棚というか、敷布が、白い部分がたくさん出ていたという、ほとんど出ていたという状況を見て大変残念に思ったわけですが、その辺はどのように感じておられるのかお伺いします。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　出荷量の減少か売れ残りが多いのかというところにつきまして、手持ちの資料として持ち合わせておりませんので、また確認をさせてもらって提供したいと思います。空いた棚が多いという、白布が置いてあって商品の陳列が少ないということは事実感じております。そこにつきまして、特にホテルの時期になりましたが大勢のお客様が来場されるという事が分かっておりますので、そういったイベント等捉えながら、それに合わせてということも、出荷者協自体でもそういった話は盛り上げていこうと観光ガイドの一員でやっておられる出荷者さんもおられますので、そういったところの相乗効果ということが大事だよねということは十分に認識しているのですが、まだ商品のほうがなかなか揃っていないというのが現状と考えております。

○大西委員長　　他ございませんか。岡本委員。

○岡本委員　　今の質問にも関連するのですが、出荷者協の売り上げが落ちていることについて、例えば加工所が利用されていなくて新商品がなかなか出てこないということについて、出荷者協の方からは、例えば試食販売をさせてもらうのに非常に手間がかかる。1ヶ月以上事前に申し入れないと試食販売させてもらえないとか、何か道の駅がフェアのようなものをやる場合でも、なかなか直前まで連絡がなかったりというようなこともあったりして、非常に使いづらいような状況もあるというお話もお聞きします。それでその辺の事実関係をまずお聞きしたいのと、それと道の駅としては、そういう地元産の新商品の開発ということもこれからより一層力を入れてい

きたいのか、それとも売上をとにかく上げるということで、もうそれは出荷者のもの、あるいは他地域からの仕入れというものには関わりなく、とにかく売上を上げる、集客をするということを重視してやって行くのか、その辺りどういう方針で経営をされているのかということをお聞きしたいと思います。

○大西委員長　榎尾参事。

○榎尾参事　前段のほうの手続き、使いづらいう点のほうでございます。以前は確かに、道の駅のほうに申し込んでから若干時間をいただいてからというタイムロスの方があつたりいたしましたが、今現在は申請をしていただければすぐ使えるような形で改善のほうを図られております。後段のほうの質問の、地元産のほうを売りたいのか、道の駅全体と言いますか、売上を地元産に拘らず上げていきたいのかという点につきましては、毎月行なっております経営者会議の中でも、サクセスさんにももちろん入っていただいて、売上を伸ばしていくためにはどうしたらいいのかという話をしております。その中でやはり一番キーになるのは、地元の産品をキラコンテナという形で売り出していくことが一番の良い方法ではないかということで、地元産品が売れる＝（イコール）道の駅全体の売上が上がっていく、集客にも繋がるというような形で経営者会議のほうでは話をしております。決して地元産をないがしろにしてということではなく、地元産を中心に道の駅の売り上げ上昇について経営者会議のほうでは話をさせていただいております。

○大西委員長　岡本委員。

○岡本委員　地元産を中心にということであれば、例えばですけれども、先ほどお話ありましたように、指定管理料として出荷者協の売り上げの15%を町が支払うということになっているわけです。つまりこれはどういうことかと言えば、出荷者協のものについては15%の委託料を補償しているということになります。町が。15%が高いか低いかという問題はもちろんあるのですが、有名な旅館さんでしたら30%取る場合もありますし、だいたい15～20%くらいが私の経験から言うと多いのかなという感じがしますが。今現在出荷者の方から取っている委託料はどのくらいで、それをこれから下げることで、その出荷を促すというような、そういうことをされるということは考えられているかどうか、お聞きしたいのですけれど。

○大西委員長　坂本農林課長。

○坂本農林課長 出荷者協の手数料につきましては、生鮮が 15%で加工品につきましては 20%というのが従来からの%と考えております。今のところそちらの%につきまして変えるというような方向は持っておりません。考えは持っていないところです。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 そうするとその場合、町が補償している 15%を合わせると、生鮮品で 30%、加工品の場合には 35%の委託料がサクセスさんには入るという、実質的にそういうことになるので、この額の高低ということについてはまた検討はしていただきたいと思います。それをお願いします。

○大西委員長 お願いしますだけでいいですか。回答はいいですか。

○岡本委員 はい。

○大西委員長 久代委員。

○久代委員 今、いろいろ同僚委員から出ましたけれども、出荷者協のメンバーの方と、常にいろいろ売れ筋商品、生鮮の野菜の話ですけれども、例えば基本的に朝皆さん出荷されるでしょうけれども、もう昼前には商品がなくなったと。棚から商品がなくなったという場合の、その基本的な連絡網ですよ。生産者への。それはどのような経路で行われていて、今日ほうれん草が少ないから出荷してくれとかということの細かい連絡体制は、どのように作っておられるのか説明をしてください。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 出荷者さんと駅の繋がりですけれども、まず出荷をされて登録をされます。そして、レジを通過して売れたらメールが入るようになっていまして、自分で何個出されたかということは分かっておられると思いますので、それでいついつ売れたかという管理をしていただくというようなまず流れの中で、それに加えて来客数等、週末等で多くて、非常に生鮮品の販売が好調だというような時ですね。それで商品がなくなった時には、駅長等から連絡をして、こういった商品が売り切れになりましたのでまた出していただけませんかというような連絡をしていくというような、そこは人の力のほうで、マンパワーのほうで対応して、基本的には 1 品 1 品売れたらメールが入るというようなところで確認をするというような格好になっております。

○大西委員長 久代委員。

○久代委員 現実問題として、売れ筋の商品の場合、日に数回出荷される、朝、昼、夕方とかという、そういう事例があって、今売れた商品については POS で自動的に商

品をチェックしてメールをされると、生産者に。生産者に直にメールが行くということですね。とすれば、生産者自身も本当に道の駅で、今この時期、こういう商品が一番よく売れているということは一番理解されていると思うけれども、その辺りについて、指定管理にサクセスに出して、出荷者協の会もいろいろ開かれているけれども、より売り上げを伸ばすためには、執行部も言われるように、日南町の特産品、生鮮野菜をいつでも手に入れることが出来るという状態を確保しておくことが大切だと思いますので、改めてその連絡体制をしっかりとやってもらいたいと思いますが、どうでしょうか。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 言われた通り、日南町に来て日南町の生鮮野菜、日南町で採れたものを買っていただきたいというのも、こちらも道の駅のほうもそうっておりますので、その連絡体制につきましては引き続き強化をしまして、出来る限り、商品のほうがたくさん並ぶように努めていきたいと思っております。

○大西委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 近藤委員や他の皆さんと重なる部分もありますけれども、基本的に供給量が足りないということが大きな要因だと思っております。その供給体制をどう強めていくのかというところが大きな課題なのですけれども。以前スタートする時点では、朝採れ野菜の生産者に1.5倍作ってもらうことによって供給量を確保するというような説明もあったわけですが、実際問題、非常に高齢化等もありまして、生産量が伸びていない。全体的に少量多品目の生産量が伸びていないのが現実だろうと思っております。そういうことからして、根本的にその少量多品目の生産を伸ばす取り組みが農林課として求められると思っております。それに関連をいたしまして、朝採れ野菜の出荷状況も減少傾向にあると思っておりますけれども、その辺りとの関連性について、まず伺います。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 朝採れ野菜につきましては、本年もスタートしまして、つい先日出荷式のほうもしておりました。両方とも、出荷者協も朝採れのほうも、全体の量で見ると減ってきているというところはあるかと思っております。ですので、こちらのほうを、実際のところ今は別々にしておりますけれども、朝採れのほうから道の駅にも出していただく仕組みとか、実際すでに朝採れにも出しつつ、道の駅の出荷者として出し

ておられる方もおられますので、そういったところにつきましては、柔軟かつ、1本化することはなかなか難しいと思っておりますので、道の駅にも朝採れのほうから出していただけると。朝採れに出されると、その場で全品が売れたということになるのですけれども、道の駅に出していただけると自分で価格も決めることも出来ますし、売れた実感というものも非常にあるのかなというところもあると思いますので。両方を補いながら、出荷量を維持をということは考えていきたいと思っております。

○大西委員長　坪倉委員。

○坪倉委員　それと、昨年指定管理料が1,400万円余りということなのですから。サクセスの経営の中で、このにちなん道の駅単独での収支というのはどういう状況になっていますでしょうか。

○大西委員長　実延企画課長。

○実延企画課長　具体的な資料はお示しいただいておりませんが、口頭によりますと1,500万円～2,000万円程度の赤字であると伺っておるところでございます。

○大西委員長　坪倉委員。

○坪倉委員　道の駅単体で1,500万円程度の赤字ということになると、今後継続するのが非常に厳しい状況が感じられるのですけれども、指定管理料を含めて1,500万円の赤字なのですか。サクセスの中で、にちなん道の駅単体での収支をやっぱり正確に把握されないと、今後の継続性というところから非常に大きな問題が今後出てくる可能性がありますので、その辺りはしっかり把握をしておいて欲しいです。

○大西委員長　実延企画課長。

○実延企画課長　委員ご指摘の点につきましては、我々もやはりきちんとした状況把握は必要だと感じておりますので、丁寧な求めを行っていききたいと思えますし、把握に努めてまいりたいと思っております。その上で、今後また指定管理者としての報告につきましては、決算の時期と併せて報告書をいただく今後予定ではございますけれども、これまでも今までの予定では5年間の指定管理委託を今のところ予定をしておる中で、まず30年度は初年度でございました。いろいろとこれまでのサクセスさん曰く、諸課題と見受けられる点については、いわゆるハードの部分の、例えばですが店舗内に防犯カメラを独自に付けるであるとか、そういったハード面の補完、そういったところも含めての収支バランスというように口頭で伺っておるところです。この辺りどういったところにいわゆる投資があり、運営のところでどういったところに

収支バランスがあったのかというところは、今後分析なり、報告の中できちんと把握をしていきたいと思っておりますが、議員ご指摘のところは、我々としても注視して求めていきたいと考えておりますので。また追って報告出来ようかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○大西委員長 古都委員。

○古都委員 同僚委員からのいろいろな質問がありますが、まず1点確認をしたいと思いますが、その日出荷したものが売れなかった時の始末の代金というのが決まっておったと思いますが、何%だったのでしょうか。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 売れ残った商品につきましては、本人さんで引き上げと認識しております。

○大西委員長 古都委員。

○古都委員 確認しておいていただきたいと思いますが、確か本人が出られない場合には、ここで言うサクセスが片付けるということで、相当高い%だったと記憶しております。先ほどの話に関連しますけれども、その%が高いということになれば出す方もちょうど売れるほど出したい、こういう発想になるのだろーと思っております。そうすれば集荷が減ると思うわけですが、この点については数字が分からないということですので、またいい機会でお知らせいただきたい。それと先ほど来の執行部からの説明の中で連絡体制の話も出たわけですが、これまで道の駅の、特に野菜に関しての集荷ですね。これは、研修生等が向こうに立場を変えて農家に集荷に行くと言うような取り組みもなされました。それから食の安全という観点から、野菜に関する知識のある方を雇用いたしまして、町が確か給料を払ったと思いますが、そういうチェックもされるというような形で、特に生産物集荷については、これまで毎年のようにスタイルを変えておられますけれども、その経験上で今のやり方が一番いいのかどうか。そこについての30年度の反省はどのようになっていますでしょうか。これをまず伺いたします。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 集荷の体制につきましては、以前は確かに農林業研修生が回っていたということもあったかと思います。現在は、基本的に個人さんで陳列までされるという格好で行っております。今のところは個人さん、出荷される方が仮に隣近所等

でまとめてとかということはあるのかもしれませんが、原則並べられる方が持って来ていただくという形を考えております。

○大西委員長　　古都委員。

○古都委員　　話の中に出しましたけれども、そうすると生産した野菜の安全については、どのような形でチェックしておられますか。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　トレーサビリティの関係につきましては、以前は JA を退職された職員さんが長年勤めていただきまして、非常に栽培の支援や、それと出荷の時のアドバイスということもしていただきました。その方が 30 年度いっぱい退職をされて、今はサクセスのほうでそういった方を指名しまして、サクセスの職員さんの中でそういった体制を取るということで今やっております。

○大西委員長　　古都委員。

○古都委員　　今一つ、先ほどお話が出ておりましたけれども、このいわゆる歩合ですね。運営委託の歩合。初めて払われたわけですが、サクセスさんが以前、この指定管理を受けられる時にこの会場においでになって、その時のお話で 3 年ぐらいしたらこれは町から貰わなくてもよくなるだろうというような発言を、確か社長だったと思いますけれどもされたと思うのですが、そういった話は今どこまで、先ほどの経営が困難というような話もありましたけれども。そういう状況では、言われた 3 年で町からの運営の歩合を貰わなくてもいいという話との整合性が取れないと思うのですが、どのように判断をされておりますか。

○大西委員長　　実延企画課長。

○実延企画課長　　サクセスに指定管理をお願いする時点で、5 ヶ年の計画も当然いただき、それもお示しをさせていただいておったと認識をしておりますが、運営にわざわざ入ってみた時に、30 年度をかけて色々と課題があるという点につきましては、先ほど担当が申しあげました毎月の定例会議の中でも伺ってきたところもあり、その点を 1 点 1 点取り組んでいきたいのだと、まずは地直しから取り組んでいきたいというところで努めてこられたように思っております。その 1 点としては、レストランの諸課題に対する取り組み、また直売所についても先程来出ております、これがあれば売れるというような特産品へのブランド化、これはまだ現在進行形であるところもございますが、数字に若干ではありますが表れてきておるように認識しております。現時

点、当初におきましては3年、あるいは数年経った後には、いただかなくてもというような意気込みも含めてだったように思いますが、計画上にも町からの委託料0という数字もいただいております。ただ、今歩みを進める中では、現時点で同じような明言をいただいておりますかと言え、再度確認する必要はどこかのタイミングであろうかと思っております。ただ、今指をくわえてというわけではなく、社長以下、会社が一丸となり、また町内の先ほど来あります顔というところは皆さんの商品が売れてナンボだということも念頭においていただいております会社でございます。これからもこういった形が、また日野川の郷にとってふさわしいのかという点については、もう少し経過を見る必要はあろうかと思っておりますが、どこかのタイミングでは委員おっしゃった通り確認は必要だと思っております。またそのタイミングについては、一定の評価を、また整理するのは決算の時期だと思っておりますので、そのタイミングでは確認してみたいと思いますので追って報告出来るかと思っております。よろしく申し上げます。

○大西委員長　　古都委員。

○古都委員　　なかなか聞きづらい話だろうと思っておりますから言われる意味がよく分かりますが、当初道の駅を作った時にMAサービスさんであればここで営業をした経験もないし、人がどれだけ来るかというようなことは分からない状態で指定管理を受けられたと思うわけですが、サクセスさんになりますとその経営形態、状況を確認した上で契約をされた。今説明があったように、されてから想定外のことやより良い方法も検討しておるといってお話のようですけれども、やはりそこは指定管の審査の段階でどのように見られたのかというのが、今となればどうだったのかな。その時の勧め言葉で、サクセスさんの経営本体は何十億円ものその携帯電話関係ですか。四国を中心に携帯を持っておられるから安心だと言う執行部からの勧め言葉もあったわけですが、やはり今課長が言われたようにお金の事ですし、計画性のことから。やはりそういう責任者がおいでになった時に、やはり方向性はですね、契約は5年と言いながら方向性は毎年でも確認していかれると。その方が無難ではないかと思うのですが、そこの辺りについてはどのようにお考えでしょうか。

○大西委員長　　実延企画課長。

○実延企画課長　　まさに委員ご指摘の点は必要であると認識をしております。ただ、指定管理を受けていただくときに、いわゆるそのプレゼンテーションとして聞いておりました計画の中には、まだPRの、例えばですがフリーペーパーとして全面的に売

り出すだとか、アプリと言いましてスマートフォンを活用した広告であるとか、そういったところまではまだ至っていないというところも半ば進行形のところもあるわけでございます。その辺りは一つずつというのは、こちら焦りも少々はありますが、会社のスピードにも少々は合わせていく必要があるかと思っております。やはり意気込みだけでは経営は成り立たないというところにおきましては、社長以下、こちらでもまた執行部と定期的な面談の中で確認をしてまいりたいと思いますけれども、今現在伺っている課題の1点、キャパシティの問題も出てきております。レストランも売上が上がってきているのも事実ではございますが、その回転であるとか、やはりお昼時に集中をしているという課題も今聞いております。その時間をいかにより入っていただき満足していただくかそういう点においては、軒下のもう少し有効活用あたりも今担当間でやり取りをしておるところでございます。そういったこちら側の改善も含めながらより売上が伸びる結果として、収支がまた良くなるような努め方についてはもう少々努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○大西委員長　　近藤委員。

○近藤委員　　最初に一つ、この道の駅が発足されてからいろいろな今までの課長の中で、アスパラの苗を配布して、先ほどおっしゃられましたけれど、ドレッシングと合わせてアスパラをどんどん作ってみんなで道の駅に出荷しようではないかという取り組みであったり、それから黄金野菜を作って、名前から見てもイメージアップと合わせて黄金野菜を作って道の駅の目玉にしようというような取り組みを打って、実行されてきましたけれど、その継続性というのか、今はどのような状況になっているのかお伺いします。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　アスパラの栽培状況と黄金野菜の取り組みにつきましてですけれども、アスパラのほうは植えてから大体5年間ぐらいが主に採れるということでしたので、引き続き生産を続けていただいております。新たに新規でどんどんということではないですけれども、アスパラにつきましては継続的に出荷者協として出している商品の一つと考えております。黄金野菜の取り組みにつきましては、現在この黄金野菜というその言葉自体は出荷者協の中でもあまり出てこないのかもしれませんが、引き続きこの黄金野菜につきましてはサクセス側としましても日南町の中で特に進めていきたい野菜というものも、何かお考えがあるようで、そういった

ものの中の 하나가黄金野菜と考えておりますので。引き続きこちらにつきましても、サクセスのほうと相談をしながら、出荷者協と。日南町でしかないというものはなかなかちょっとないですけれども、日南町に来たらこの日南町の野菜が食べたいというものを作っていくということは今検討しているところです。

○大西委員長　　近藤委員。

○近藤委員　　アスパラの件についてですけれども、アスパラの出荷者がこの苗を配布したことによって生産者が増えたのか、量が増えたのか。既存の方、今までも作っておられた方が引き続きアスパラを提供されておられるという状況が大変見受けられます。新しいこの苗を配布、2年にわたって、確かアスパラガスの苗を配布されたわけですが、その配布された方がこの道の駅に対してどれほど出荷されているのかということ把握されておられますかということです。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　それにつきましては、手元の方にデータとしては苗を貰った方がどれだけ出されたかということ、それと従来生産されていなくて新たに生産者としてなられた方がどうかということにつきましては、後日、また確認させてもらいまして資料を提出等、報告をさせていただきたいと思います。

○大西委員長　　よろしいですか。近藤委員。

○近藤委員　　視点は変わりますけれども、この運営委託料、指定管理料というのは、1,000万円固定としてあるわけですが、その中にやはり各町に出かけますと、道の駅というのは町の顔的な部分もあるわけですし、そこに来られる方が店員さん、その社員さんとの会話を楽しむという場でもあるように自分は見受けております。そういった中で、この日南町を社員の方が十分理解されておられるのか、そういった教育というよりも知識を得る機会等をサクセスと話はされておられないのですか。

○大西委員長　　実延企画課長。

○実延企画課長　　委員ご指摘の点につきましては、まさしくそういった道の駅を指すというところでは1つの売りとして、コミュニケーションというのは非常に大切なものと捉えております。かつて、日南町在住、あるいはご出身の方が大半を占めていた会社であり、会社に委託し、今は当初よりも社員が多くなってきて、いわゆる日南町直接ではない方も増えてきたと実態としては認識をしております。ただその中におきましても、まずは道の駅がどうあるという点は、社員教育の中で指導いただいて

おり、日南町というのはこういう所というのは自分の経験で積み上げられたものというのとは少のうございますけれども、教育の中では指導いただいております。とはいえ、経験者であったり実際に住んでいらっしゃるという方々に比べますと見劣りする点もございます、この辺りは我々もやっぱりそこは必要であるという点からは現在観光案内書がございます。そのスタッフからも、とにかくコミュニケーションを取るようお願いするというような横の連携にも今努めていただいておりますのでございますけれども、お客様、とかくりピーターと呼ばれる方におかれましては、あの方見なくなつたねとかという寂しい声も聞いたりします。そういったところから、本当に大丈夫なのというような心配いただいているのも事実でございますけれども、そこはやはり社員も未来永劫勤めるというわけでもございませんし、その辺りはコミュニケーションというのは一つの重要なところという点におきましては、教育もまたさらにこちらをお願いをするところもでございますけれども、観光協会ですしたり他の出荷者協議会の方と、またそういったところでお客様をお迎えするという点においては、今後も協議等を重ねる中で、目合わせ、また申し合わせをして取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

○大西委員長　　近藤委員。

○近藤委員　　大変大事な取り組みの一つだと思うわけです。要するに物が売れる売れないというのは別に、自分たちがよその道の駅に行った時に、その雰囲気というのはやはりその社員、店員の方が、どういう雰囲気を醸し出されているのか、またその町に対してどういった愛情を持っておられるかというのは本当に大事なことで、リピーターの大きな要因になると思うわけです。だからその辺の事をもう少しいろいろな立場から、サクセスのほうに、会社のほうにお願いして欲しいと思いますし、それともう1点それに関してですけど、前から観光協会をあそこに据えたらという提案をしてきて、一時あったわけですけど、今ホテル鑑賞の期間になりまして、夜10時まで営業してもらっております。大変賑わっていい姿だと自分は感心しておりますけれども、ただお客様のほうから1点要望があったのが、ホテル鑑賞に来るのに、5時になったら観光協会に電話したら繋がらないと。それは当然です。5時までですので。役場の中にあるわけですから。要するに現地の天候を知りたい。山陽の方でしたけれど。まだ2時間かけたら十分行けるので、6時前後に電話したらもう繋がらないと。どこにも。そのパンフレットにあるのに。そういうのを道の駅のほうで

対応したら、リアルタイムにこの現地の天候であったり、山陽が降っているのにこっちは降ってないという状況もありますし、反対もありますので。そういったリアルタイムの天候であったり現状であったりを、やはり道の駅を介して発信しないと、5時になったらもう観光協会、役場、企画課、そういったものが、直通的に繋がらないわけなのです。それは大変お客さんにとっては不安であるし、どうしようかという悩まれる部分でもありますけれど、そういった面を、いろいろな面ですけれど、今ホテルのことを事例に出しましたけれど、それに限らずいろいろなことでそういった要望が多分あると思うのですよ。そういう声が入るか入らないかは別だけれど。そういった取り組みについて、要望をしてもらえることが出来るわけですか。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 まずホテルの件につきましては、今真っ最中でもございます。ただちに道の駅のほうにも連絡いたしまして、そのような対応が出来るような体制、そのような問い合わせがあった時にお答え出来るような形というのはとっていきたいと考えております。おっしゃられるように、道の駅、情報の発信の場所ということにもなっております。多くの情報を道の駅に訪ねることで、知っていただける場というのは必要となってまいりますので、再度その辺りを道の駅のほうと話をしてみたいと思います。

○大西委員長 岩崎委員。

○岩崎委員 いろいろお話を伺っておる中で、サクセスさんも日南町の道の駅では、単独では赤字の経営というようなお話もあったりして、実際これまでの来客数、あるいは売上の月別のものを見たりしましても、その状況が出ておるわけでございます。当初、このサクセスさんが日南町の道の駅の指定管理になられるということで期待しておった部分が、やはりこれまでの直売所での販売以外に、ネット販売とか、あるいは外商における小売店とかスーパーとか、そういうようなところの販路の拡大、そういうようなところを非常に期待しておったわけでございます。日南町に道の駅に来られます方というのは、やはり急激にこう人数が増えるということは難しいと思うのですけれども、やはりこのような手法によって販売額を伸ばしていくということは非常に大切なことであって、サクセスさんに期待していたと思っております。その中で実際その取り組み、ネット販売、あるいは外商についての取り組み、今の状況について伺いたいと思います。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 委員ご指摘の点につきましては、私どもも毎月の定例会の中で報告を受けている中では、これから取り組むのだというところで、現状では具体的にネット販売という形で表れていないのが事実でございます。ただ当初から、この会社の強みであるネットを活かした販売というのは、それこそ期待をしているところでございまして、まだ進行形の一部と捉えております。出来るところからという点で、アナログではございますが、例えば携帯電話のショップあたりでここの日野川の郷でしたり、また日南町の情報発信については、ポスターですとかチラシであるとか、そういったところでグループの活用というのは伺っておるところでございます。そういった情報発信と、今委員ご指摘のネット販売、ここは間接的な関係でございますが、具体的に実際にクレジットカードが使用出来る環境、それとインターネット、パソコンによる整備あたりについては、ボタンタッチするところでは課題の一つではございましたので、そこを徐々に販売が出来るように、今仕組みもそうですし、また人力的な配置も今やっているんだということでは聞いておるところでございます。いずれにしても、このご指摘いただいたところは改めて要望していきたいと考えておりますし、加えまして、ふるさと納税という点につきましても今年度目標を掲げてございます。さらなる売れ筋商品もございましたけれども、この辺りのさらなる売れる物ということについては、生産者、加工者、一丸となって取り組むべきことだと思っておりますので、またそのあたりも PR に努めたいと思っております。よろしくお願いします。

○大西委員長 岩崎委員。

○岩崎委員 お答えいただきましたように、やはり携帯電話の販売の事業とか、アプリの開発、システム開発というような、非常に長けた会社だと思っておったわけでございます。そこの辺りが遅れておるといのは、意外だと正直思っております。そこがいわゆる、この道の駅の販売額の拡大というところに大きく貢献するのではないかと思っておったわけでございます。とは言ってもネット販売というのは、当たれば大きいのでしょうけれども、多くの失敗もあろうかと思うわけでございます。もう一つ外商の部分で、スーパーマーケットとか、卸への販売というような部分についての動きというのはありますでしょうか。

○大西委員長 丸山副町長。

○丸山副町長　スーパーマーケット等については聞いておらないところでありますけれども、また後で話があるかもしれませんけれども。今までいろいろとお聞きしたところ、岩崎委員さん以外のところも含めたところでありまして、この2回だけでしたけれども、出店者協議会というものに参加させていただいたところでもあります。その中で先ほどからお話が出ておることは、本当に全て話があったように感じております。ただし、それが全て課題を解決したというところではありませんけれども、実態は皆さんそれぞれが把握をしておられて、それに向かって努力をしておられると感じております。普段話をするのは、道の駅と出荷者の皆さんのお話が主であります。その中で、先ほどからも話が出ておるところで、出荷者協議会については本当に集まらないというところを、それにはいろいろな過程があったと思いますけれども、現状のこの春にかけて集まらない、それからだんだんと会員さんは減っていないかもしれませんが、量が減ってきておるということを切々に訴えられております。その方法等については、また協議をしていかなければならないと思いますし、出荷者あたりについては道の駅にいろんな指導もして欲しいということも話を聞いたところでもあります。もっと多くの商品を出して欲しいなという、そこにはどこに課題があるかということ道を道の駅のほうからも話が出ております。サクセスさんから言えば、本来のこの道の駅の基本である日南町の産品を販売したい。それからPRに努めるというようなところが基本であるので、なかなか営業という部分に走ると、それはよく言われる野菜以外のところのその収入等々のほうが、金額的には大きくなってきますので、それに走るとなると営業のほうが良くなるかもしれませんが、でも基本的なところが違うということをサクセスさんは言っておられて、であるので、この道の駅の主たるところの経営方針というところをどうしても持っていきたいというところで、経営に苦慮しておられるというところもあります。その辺を先ほども話しが出ておりました観光協会、あそこの一帯にありますので、観光協会やトマト加工等々と話をしながら、さらにより良くなるための話し合いを現在しているところでもあります。その状況等については、先ほどからも報告をしたところでもあります。是非、前向きに検討していきたいと、協議を重ねながら進めていきたいと考えておりますので、いろいろなインターネット等々で発信をして販売というところも考えておられるようでありまして、基本的なところが若干違うというようところも含めたところで、多くの人に来ていただいて、それから日南町の農家さんもより良いものになるようなと

ころを一生懸命模索しておりますので、またご指導等をいただきたいと思います。スーパーマーケット等についてはお応えしたいと思います。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　外商の動きにつきましてですけれども、検討のほうはサクセスのほうもしております。ですが、まだ出荷者協等と、出荷量の関係やロットの確保というところも含めまして、まだ話が詰まっておりますで実現していないというところが現状でございます。引き続き外商の動きにつきましても、外商という格好であれば出荷者のほうも一度に販売する額も増えるということにも繋がりますので。そこにつきましては、引き続き今検討ということでご回答させていただきたいと思います。それと近藤委員の言われた黄金野菜等々の野菜の取り組みはどうだったかということで、今具体的にそれだけに絞ってということはしていないということは先ほどお伝えしましたけれども、引き続きアスパラの苗等を直接配ったりということはやっておりますけれども、野菜振興ということで苗助成というものは、販売するものにつきましてはやっておりますので、そちら等を併せながら。それと道の駅のほうも野菜の栽培講習会等も開催をしておりますので、そちらのほうで生産振興は図っているというような状況でございます。

○大西委員長　　岡本委員。

○岡本委員　　いろいろ言っただけで申し訳ないですけれども、2点確認したいことがあります。町内産品でキラーコンテンツをということでお話がありまして、これは是非本当に加工所もございまして、その試食販売も併せて精力的に是非進めていただきたいと思います。ただ、どうしてもその野菜を使って、あるいはきのこを使ってというようなことで作っていくと、なかなか差別化していくのが難しいという問題はあると思います。それと加工品でない生鮮の野菜というものは、これははっきり言ってどこにでもあるものですね。日南町もそうですし、日南町周辺の町でも作られるようなもので、なかなかその差別化というのは図っていくのは難しいのではないかと思いますので。それで差別化というか、キラーコンテンツを作るという面と、あともう一つ、町内の方がもっと道の駅へ来てくださるという面を考えた時に、私はこれ本当に個人的な感覚なのですが、今度パティシエの方が来られてケーキを作られて出されています。このケーキは評判もかなり良くて美味しい。見た目もいいですし美味しくて、子供だけではなくて大人の方もおいしく食べられるというよ

うな評判をいただいて、しかもこれは人を雇っているわけですし、インフラというかショーケースもあるのですから、そんなにこれ以上お金をかけなくてもいいということで、例えばこのケーキ屋さんを利用するということをこれからどう利用していくかというようなことを考えておられるかということをお聞きしたいのと、あともう１点はこれまでの行政調査でもお話を聞くのですけれど、店内の装飾について、もうほぼ建物自身は出来ていますし、看板も出来ていますし、なかなかいじれる所は少ないのかもしれませんが、例えばPOPですとか、そういうものについては専門の業者の方にももちろんお願いしているのでしょうけれども、お願いしてあと従業員の方もPOPの講習などに行っているというようなお話も聞いたのですけれども。そういうような展示の仕方、見せ方みたいなことについて、どういう工夫をされているかというようなことを教えてもらえればと思います。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 キラーコンテンツのほうにつきまして、ケーキを今後どうやって売っていくのかという点につきましては、今現在委員おっしゃっていただきましたように、道の駅ではケーキのほうが大変売れ筋の商品となっております。評判も非常に良く、多くのリピーターも確保してきているような状態となっております。今後につきましては、日南町の季節の果実、今後ですと栗ですとかベリー等をパティシエさんのほうも使ってケーキのほうを作って行きたいということをおっしゃっていただいております。日南町のものを使っていきながら、メインとなる地位をケーキで作っていきながら、今後も販売促進のほうをしていきたいなと思っているところでございます。後半のポップにつきましては、研修のほうも実際やっていただいているところではございます。経営者、出荷者協さんのほうにも、以前はPOPの研修会というのを受けていただいたりしまして、より良い見せ方、お客様に届くPOPというのを研修していただいたりしております。経営者会議の中でも、やはり商品を売っていくためにはどのような形でお客様にその商品の魅力を伝えていくのかというのを、役割はやはりPOPが占めていると思いますので、商工会さんのほうも経営者会議のほうに入っております。商工会さんからの提案の中にも、是非とも商工会主催でPOP講習等もやっていきたいというような話もいただいております。そういうところを活用しながら、より良いお店の中、雰囲気作りというのをやっていきたいと思っております。

○大西委員長　　よろしいですか。他に皆さん運営状況につきまして、ご質問ないですか。山本議長。

○山本議長　　2点お尋ねをいたします。去る3月の中心地の委員会におきまして、自動販売機についての質問と言いますか、意見が出ておりまして、その売り上げの1品1円の処理はどうなっておるかということが出ておりました。この回答をいただいていないと思っていますし、またレストランの軒下ですかね。露天の関係で、この露天の資格を持っているのかというお尋ねがあって、後日回答すると委員会ではありました。そのあと今日まで回答いただいていないと思っておりますが、いかがでしょうか。

○大西委員長　　榎尾参事。

○榎尾参事　　前段の自動販売機のほうについてお答えさせていただきます。自動販売機のほう、120円のジュースやお茶に対して1円をプラス、121円で売ることとはしておりませんで、120円のうち1円をサクセスさんのほうに負担していただいて、1円を上乗せた形で指定管理者さんのほうに負担していただいているような状態になっております。

○大西委員長　　もう一つ。露天の資格については。実延企画課長。

○実延企画課長　　営業の許可の範囲の中で運営しているというような認識でお答えしておったつもりではございましたが、失念しておりましたので、至急どういったところの中でやっているかというのを至急報告させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○大西委員長　　よろしいですか。古都委員。

○古都委員　　確か私が質問した案件だと思うのですが、以前にも似たようなことがありまして、通路にこの店は何を売っておるとというような木のこういった看板を置かれて、それに人が多いので足元が見えないということで引っかかる方があるから、通路は綺麗にしておいたらいいですよという話をした挙句にビニール囲いですが、いわゆる露天商的な販売形態がなされておった。それも通路でやっておられるということ。それと、店名あたりがないので、どなたがしておられるのか。おおよそ私の知らない方がやっておられたように記憶しておりますけれども。そうした場合に、前はレストランがやっておるとようなことを言われましたけれども、おそらく保健所あたりの手続き、当初ですね。そういうようなものはなかったと思うのですよ。で

すから今課長がお答えになられましたけれども、早急に対応されてクレームの入らないような営業形態、あるいは必要であれば営業許可ですね。そういったようなところもチェックされませんか、事故があつてからでは大変ですので、今一度その確認をお願いしたいと思いますがどうでしょうか。

○大西委員長　実延企画課長。

○実延企画課長　ご指摘いただきました点は重要な部分でございますので、通路全体的なところも含めまして、早急に確認し報告をさせていただきたいと思います。大変申し訳ございませんでした。

○大西委員長　皆さんのほうからいいですか。山本議長。

○山本議長　この特別委員会は本日設置をされたということで、先ほど申し上げました回答ですね。報告をしていただく場がなかったということであつたとは思いますが、最初に私期待をしておつたのは、最初の報告の中でこの２点について報告があるのかなと思っておりましたが、何もなく報告が終わつたところであります。本日も何点か確認をして報告ということがありましたので、速やかに委員長のほうに報告をしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

○大西委員長　実延企画課長。

○実延企画課長　改めましてその辺は猛省をして、今後に繋げたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○大西委員長　運営条件つきまして他の委員がないようでしたら、私のほうから１点だけお願いします。先ほど山本議長が言われました１品１円の件ですが、今回日南町はSDGｓの未来都市ということで選定を受けました。本当に町が今までやってきたこと、そしてこれからの運動に良かったなと思うのですが、この１品１円のことで、このCO2ゼロの道の駅ということで謳い文句になっています。玄関を入りましてCO2の毎月実績表が出ておりましたが、現在２月の実績でそのままずっと止まっております。私は３ヶ月以上見ておるのですが、全く変わっておりません。これについては、道の駅全体の運営として、町のフォローですが、どのような仕組みになっておるのでしょうか。榎尾参事。

○榎尾参事　大変申し訳ございません。私のほうがそちらのほうを貼り直すことを失念しておりまして、３月までの実績、昨年度の実績を７月１日に掲示し直させていただいております。それぞれの掲示板、道の駅の出入口のほうに掲示させていただい

ておりますので、そちらのほう改めてお客様にお伝え出来るような形で掲示させていただきました。今後につきましては、このようなことがないよう、実績が分かった段階で速やかに新しい情報に更新していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○大西委員長　　よろしくお願いいたします。次のアンケート結果は少し時間がかかるので、暫時休憩をしたいと思うのですが、40分にしましょうか。次の再開を10時40分といたします。

（休憩　午前10時25分～午前10時40分）

○大西委員長　　委員会を再開いたします。榎尾参事。

○榎尾参事　　休憩前にお答え出来なかった点につきまして、ご報告させていただきます。古都委員のほうからと議長のほうからございました、軒下営業の件についてでございます。軒下営業につきましては、古都委員ご指摘の通り、店名がなく分かりにくく大変申し訳なく思っております。こちらのほうサクセスさんが許可申請をして、許可を得て営業していただいているような状態になっております。通路につきましても、委員ご指摘の通り、来ていただくお客様のご迷惑、安全確保というところも踏まえて、再度サクセスさんのほうに徹底していただくように伝えてまいりたいと思っております。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　榎尾参事に続きまして、先程お答え出来なかった件につきましてです。売れ残り商品等の関係のことにつきましてですけれども、野菜等の売れ残りにつきましては、正直現在のところ数字のほうは何%というものは持ち合わせておりません。感覚的に確認したところ、野菜の売れ残り自体は2割程度ぐらいかなという回答をいただいております。それで野菜の出荷量全体が売り上げが下がっているように、減少傾向のため、これを何とか打開しまして、増えると。増産体制のほうに、少しでも多くの方に出していただくような体制をとっていきたいと思っております。ですので、出荷量自体が減少傾向のため、売れ残りの割合自体はそんなに上がってきているというわけではなくて、横ばいか、下がっているというような状況と思っております。それとサクセスのほうの売れ残り商品の処分費ということですのでけれども、こちらにつきましては、当初処分費というものをいただくというような話もあったそうですが、それがあると委託販売の中でさらに経費がかかってしまうという、余計に野

菜を出していただく足かせに、ハードルになってしまうのではないかと、
処分費というものは今取っていないということでした。それとアスパラの件ですけれども、アスパラにつきましては毎年 10 名程度、当初 3 年間ですけれども、10 名程度に配布をしております。実は私、栽培が簡単なものかと思っておりまして、割と栽培が難しいものだったそうで、圃場の条件だとか、いろいろ苗で植えておけば 5 年間はうまい具合に採れるのだというように思っておりまして、そしたら非常に難しかったということで、今県の普及所や試験地等にもお願いをしまして、栽培講習会等も開催して、5 年採れるなら採れるうちで、より収量が取れるように取り組んでいる最中ということです。生産者の数としては増加をしているということで、生産量として情報のデータのほうは今持ち合わせていないというのが現状でございますので、これで回答とさせていただきたいと思います。

○大西委員長　　古都委員。

○古都委員　　今説明いただきました処分費については、今取っていないというお話の上でございますが、出荷者協とサクセスとの話ではそれでいいかも分かりませんが、元々話しておられました生産者を増やすという観点ですと、それはある程度公表されないと、確か 25%くらいだったように記憶しておりますけれども、それが大変だということで道の駅を選ばれないというようなお話も若干聞いた経験がありますので。何かの折に処分費は取らないということを明言されたほうがいいのではないかなと思っております。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　私、過去の経緯、経過のほうを勉強しておりませんで、そういったことがハードルになって出荷のほうを差し控えておられる方がもしおられるようでしたら、この点につきましては伝達のほうする方法を考えまして広報したいと思います。より道の駅の出荷のハードルが下がるように努めていきたいと思います。ありがとうございます。

○大西委員長　　久代委員。

○久代委員　　出荷者協議会の現在の生鮮品のみの出荷者数と、前年の実績を見れば分かるわけけれども、出荷されている人の全体の販売額と、個人別。要するに私が言いたいのは、生産者の裾野をいかに広げていくかという取り組みとの関係で、やっぱり地域的にもバランスが取れた出荷者を構築していただきたいということがあるの

で、出来れば生鮮品の品目別の、平成 30 年度の出荷が分かる、販売額だけでもいいかもしれませんが、そういう生産者別のもし資料が出来るようだったら、全体で 150 人ぐらいだということを聞いているわけだけども。特に生鮮品についての資料があれば出していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　出荷者協の個人別のものと言いますと、今のところ持ち合わせておりません。品目別であれば、トータルというものは毎月のものがありますので、その積み上げということは出来るかなと思いますけれども、個人別の総トータルというものが、個人別で、なおかつ品目別みたいなものが必要でしょうか。

○大西委員長　　久代委員。

○久代委員　　品目別はよろしいです。要するに、地元の野菜が実際に何人の生産者が、出荷者協議会には加工の部門の方も参加されているので、生鮮野菜を実際に出荷されている人数÷出荷総額ですね、野菜の。それで計算が出来るかなと思いますので。要するに出荷者の生鮮品の出荷者数がやや減少傾向にあると。高齢化のこともあってという説明があったので、実際に何人の方が出荷かされているのかという資料をお願いしたいと思います。

○大西委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　そうしますと、今手元のほうで毎月出しているものが品目別ということになっておりますので、そちらのほうまたもう少し紐解いて、分けて個人別に生鮮でいくら売り上げが、A さんだったらいくらで、B さんだったらいくらというようなものをということだと思っております。

○久代委員　　平均でいいです。販売額÷人数で。

○坂本農林課長　　平均でいいのですか。では平均につきまして、今手持ちにありませんのでまた報告させていただきたいと思います。会員数につきましては、29 年度総会時点で 156 名、30 年度総会時点で 167 名、31 年度総会時点では 163 名というような人数になっております。こちらは生鮮だけではなくて、加工品も含んだ全体ということでこの人数を把握しております。

○大西委員長　　よろしくをお願いします。そうしましたら、まちづくりアンケート結果に基づく中心地域整備の今後の考え方について説明をお願いします。実延企画課長。

○実延企画課長　　そういたしますと、まちづくりアンケート結果に基づきます中心地域整備の今後の考え方についてご説明させていただきたいと思いますが、本日は資料をご用意しておりません。参考としまして、去る５月１０日の議会全員協議会において分析結果を報告させていただいたところでございますので、そちらのファイルをお開きいただければと思っております。改めて整理をいたしますと、まずこの中心地域、特に大田原地区についての設問をさせていただいたところでございます。まず世帯用アパートについてでございます。中心地域への世帯用アパートの必要性を問う設問があったわけでございますが、必要な声と必要でない声がほぼ同数であったところでございます。次に、中心地域へどんな設備を望むかを聞いたところでございますが、雇用場となる場所、次に誰もが利用出来る芝生などの広場、さらには健康増進施設といったような意見が高うございました。世帯用アパートにつきましては、全体の約６％という結果でございました。ただ気軽に住めるところ、住むことの出来る住宅ニーズというのはあるように感じておるところでございます、中心地かどうかということ、場所の検討も必要ではありますが、これまでいろいろな場面で空き家の活用であるとか町営住宅の活用というのも、皆様よりご指摘いただいてあるように認識をしておりますので、それら一体的に今後も検討してまいりたいという方向性で現在考えておるところでございます。続いて、健康増進施設でございます。中心地域への整備を望む声ですが、全体の約２２％という回答状況でございました。そのうち利用されるかどうか伺ったところですが、およそ必要とされる中のうち、およそ９割の方は利用するであろうという状況でございました。中には既存施設が活用出来ないだろうかという、改めて建てるということよりはハード面の活用という意見も寄せられておるところでございます。ご承知の通り、現在各集会所で行われております１００歳体操といったようなトレーニングもございますし、近隣市町村に見受けられます本格的なジム施設でのトレーニング、内容によっては健康増進と一概に言いましても様々な提供が見受けられるところでございまして、どの世代に向けて、どのような機能を持つものを提供していくのか、整備するのか、という点につきましては、それこそ既存施設の活用も含めまして検討していきたいと、今方向性として考えておるところでございます。この辺りの進め方全般でございますけれども、まず執行部としましては、町所属を超えまいわゆるプロジェクト体制ということも方法の一つとしまして、現在内部協議を行っておるところでございまして、今後の展開、場面場面でまた随時

報告させていただけるものと考えておりますが、このアンケート結果については先ほど申し上げました大田原地区を中心に聞いたところでございますけれども、中心地域と言いましても今現在休止しておりますかすみ草の活用でありますとか、中には生山分譲地、まだ戸数残っておるところもあるわけでございます。販売の促進であるとか、中心地域全体ではまだまだ課題を山積しておるということは認識をしております。今後の進め方としてでありますけれども、総合計画も今後審議会等、委員選定からの審議を進めていく予定でありますし、あるいは総合戦略の中でも、KPI であるとか、こういった進捗管理については委員さんからまたご意見いただく機会もございます。改めての指針であるとか計画となるように、それら計画立てと共に進めていきたいというのが今のところの方向性でございます。それらの過程におきましては、またこの場がいいのか、また別の機会、あるいはそういった機会を捉えまして委員の皆様にも相談をしながら進めてまいりたいと思っておるところでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。口頭ではございましたが、今後の考え方につきましてご説明いたします。

○大西委員長 説明ありました。大きく世帯用アパート、それから健康増進施設、それ以外の生山分譲地と、それ以外がありますが、質疑につきましてはまず項目的に、世帯用アパートについて、何か質疑ございませんでしょうか。荒木委員。

○荒木委員 世帯用アパートですが、当初でいきますと 15 世帯で残り 9 世帯というのが、今の消防車の後ろのほうに計画が当然ございましたけれども、それはもう頭から白紙撤回のような考え方でよろしいでしょうか。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 以前の委員会でもそうでありますし、今回のアンケートを皆様をお願いするにあたりまして、いわゆる青写真と申し上げましょうか、構想の計画案としてはそのようにお示しをしたところでございますけれども、アンケートの結果でしたり、それまでに前回の中心地域の委員会までにも、既存の施設の活用辺りもご指摘をいただいた経過がございました。全くの白紙というのは大いに後退するような考えを持ち合わせますので、そうではなく、そういったプロセスを経て、改めて場所やその提供方法については再考したいというようなものの言い方をさせていただきたいと思っておりますが、去る今年度の総合計画の評価委員会辺りではまだ報告を行っていないところです。議会報告をさせていただいておりませんが、第三者評価委員会の

中では、15戸の目標、KPI に対して、この期間中の計画達成は困難であろうということから、現既存の6戸の下方修正を第三者評価委員会の委員の皆様にはさせていただいたところでございます。その辺りは、帳尻合わせというような意味が強いわけですが、先ほども申し上げました通り住宅ニーズはまだまだあると感じておるのが正直なところでございます。では、こういった形で提供するのかというところは必要ながらも今後また再度検討していくというところで、現時点では整理させていただいておるところでございますので、よろしくお願いいたします。

○大西委員長 荒木委員。

○荒木委員 現町長の意向と私は捉えておりますが、世帯用住宅とは別に高齢者住宅というお話を伺ったことがあります。その点について、もう少し詳しく教えてください。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 先ほどの冒頭の説明では触れませんでした、かすみ荘辺りの活用あたり、また既存の虹の郷であるとか、あさひの郷、そういった高齢者福祉施設、トータル的にこの中心地域エリアで既存施設を活用する中では、高齢者向けのサポート付き住宅という制度に基づいたものが良いかというのは一例と現課としては捉えておりますが、そういった高齢者向けのアパート整備も住宅も必要だと伺っておりますので。それらもこのエリア活用にあたっては、やはりどこかの時点で、また項目で、検討を進めていくということで整理をしておるところでございますので、必ずしも若い世代向けに特化したとか、そういう使い方ではなく、今町内に住んでいらっしゃる方、また今後の住宅ニーズ等と照らし合わせながら進めていきたいというところでは、今のところ包括的な物言いしかできないところはご了承いただきたいのですが。今後また細部に渡って進めていく中でご相談させていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○大西委員長 荒木委員。

○荒木委員 まだはっきり決まってないということですが、その消防署の後ろ、前のステップさんの建物が建っていますね。プレハブみたいな住宅が。あれの解体というような意向があるように聞いておりますが、その計画についてご存知だったら少し教えていただけますか。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長　重ね重ねになろうかと思います。以前に構想計画案と出した際には、当時の平成31年度に取り壊す、あるいは設計に入る、着手するというような計画であったと認識をしております。それがその後の進捗、あるいは内容、あるいは中心地域の会議あたりでご指摘いただいたご意見をトータル的に考えますと、あの場に建てることも含めてですが、取り壊しも再考をするというところで、今宿題をいただいており、包括的な住宅需要に対する中心地域での在り方、また検討という、リスタートという状況に今捉えておるところでございます。従いまして、まだ当然ながら予算化も出来ていないところでございますし、その辺りの考え方がある程度案として煮詰まりますれば、またご相談させていただきたいと思いますが、現時点においてはまた再考するというところでご承知いただければと考えております。

○大西委員長　よろしいですか。そうしましたら健康増進施設について、皆さんからご質問ございましたら。なければ、その他全体を通して。久代委員。

○久代委員　5月10日の全員協議会の資料に、総合計画の案が、タブレット35ページですね。それに6月いっぱい骨子案を作成されて、その中に先ほどあった総合戦略の第三者委員会の報告、過日開かれましたけれども。これも議会にはまだ報告がなされていません。それと、今いろいろ中心地のそれぞれのテーマで委員長が質疑を求められましたが、今執行部の説明を聞くと総合戦略も含めて中心地の整備について再検討したいという趣旨の説明がありましたよね。とすれば、やっぱり総合計画の中の1つであるし、中心地域をどう今後活動していくかという大変大事なテーマであるので、私は出来るだけ早いうちに、青写真をいつ頃作られるかということもあるけれども、今度きっちりとした案を作られてからこの特別委員会を開催したほうがいいのではないかなと思って。世帯住宅も一応白紙状態ということもあったし、その町民の方から抽出アンケートをいただいた結果をより反映した形で執行部がいろいろ検討されて、提案されると思うので、その執行部の提案を待ちたいと、具体的な提案を待ちたいと思いますがどうでしょうか、委員長。今後の進め方について、私はそういう提案をしたいと思いますが。

○大西委員長　今、久代委員から出されました、今総合計画を作成中ということで、本当に骨子案がまとまる前に事前に議会のほうへ説明をお願いしたいと思いますが、副町長いかがでしょうか。丸山副町長。

○丸山副町長 おっしゃる通りであります。全て出来てからということ、先日の第三者委員会あたりについても会議を開催する前に議会というところとリンクはしないかもしれませんが、基本的にはものが出来る前に出来たら、せつかくのこの会がありますので、そういうところも含めたところでの協議というか、報告、ご意見を聞く機会は設ける必要があるのではないかなと思っております。全て出来てから、これで行きますけれどもどうでしょうかというのは避けたいと思いますので、私もそのように理解をしております。

○大西委員長 ありがとうございます。よろしくお願いします。何かその他全般にございましたら。坪倉委員。

○坪倉委員 中心地域の事についてはいろいろな課題がある中であります。アンケートの中で、中心地域に整備を求めるものの中に雇用の場の確保というのが一番多いわけですね。このアンケートの中身というか、雇用の場の整備が必要と答えられた方の思いというのがどこにあるのか量りかねますけれども、本当に中心地域にこういう企業誘致なり、新たな企業、あるいは働く場の確保というのが可能かどうか若干疑問に感じるところもありますけれども。中心地域整備に関するアンケートで、こういう町民の意向が出てきております。現実には。その事に対して、執行部はどのように考えておられますか。また、中心地域全体の整備構想のこれから検討される上で、どのような位置付けで考えておられますか。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 あくまでも今現在現課の整理の状況でございますけれども、確かに結果として、この雇用の場を求められるご意見が突出してございました。現状としましては、一方では有効求人倍率は非常に高いものが推移しておりまして、この辺りが総じて町に今欠けているもの、この中心地域という問いではありましたが、必要なものという総意にも捉えられるような、形でも捉えられるのではないかとという一方では、違った形での分析というのも側から思ったところでございます。ただ、ストレートに物を見ますと、雇用の場が突出しておると、先ほど委員ご指摘のところでございます。これらは、もう少し紐解かせていただく必要もありまして、今年度既に予算はお認めいただいておりますが、働くということに関して就業アンケートを取る予定にしております。どこまで計画に盛り込めるかということもございまして、総合計画では包括的な内容にある程度はこの中心地域の方向性等も触れられるようにしたいと

と思いますが、盛り込めないとすれば、またそれとリンクを貼るような形で、別の形で具体的にアクションプランであるとか、方向性を考えるものはお示ししていただきたいと考えておりますけれども、いずれにしても、もう少しお時間いただきながら、真意でしたり、この辺は皆さんの負託に応えるためにはもうちょっと時間が必要なのかなと正直考えておりました、それらを元にまた町長をはじめ、執行部の意見として、ある程度こしがまとまりますればご相談させていただきたいと思っております。非常にご指摘の点につきましては、私どもも現課としましても慎重に取り扱うべきだという点では思っておりますので、またご意見頂戴しながら進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○大西委員長　　他、皆さんからご意見は。坂本農林課長。

○坂本農林課長　　先ほど久代委員言われました生鮮の件につきまして、少し分かりましたので報告させてもらいたいと思います。平成 30 年度の実績になりますけれども、生鮮野菜の年間販売額のほうが 720 万円程度ということになっております。これは、生鮮とは言いましても野菜ということでご理解いただきたいと思います。生鮮部会の会員数、出された方が大体約 100 名ということですので、大体平均しますとお 1 人当たり 7 万円程度の出荷で売り上げを得ておられるということになります。実際に定期的に、道の駅にどんどんと出してくださっている方ということになると、感覚的なものですが、3 割程度の方は通って複数回出していただいているというような感じとなっております。

○大西委員長　　久代委員。

○久代委員　　720 万円という野菜の販売額が、日南町にあっては少な過ぎますよ。はっきり言って。せめて 400、500 万円最低なかったら、道の駅の直売所として売りが何なのかという気持ちに。びっくりしました。やっぱり生産者の裾野を広げること、それと連絡体制ですよね。さっきレジを通過したのは自動的にかどうなのか、詳しいことは分かりませんが、生産者に連絡メールが行くと。それで時間帯が昼とか夕方とか、先ほど同僚委員があった、お宅のレタスは廃棄しましたという連絡も同時にメールで流れるのかという、そういう連絡体制のことも含めて、せめて道の駅の直販とすれば 1,000 万円ぐらいは売り上げが出来るような体制を、指定管理のサクセスだけの問題ではない。やっぱり担当課の農林課が本気になって取り組まないと。こういう実態ならダメだと思いますので。よろしく願いいたします。

○大西委員長　　他、皆さんから質疑ございませんか。ないようでしたら、本日の委員会は、以上をもちまして閉会いたします。お疲れ様でございました。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和　　年　　月　　日

委　員　長

副委員長